A R C 作品集 2 0 2 2

A R C
作品集
2 0 2 2

目次　CONTENTS

mother's+ …… 86

設計監理　竹中工務店

施工　竹中工務店北海道支店

株式会社　青函設備工業 …… 87

設計監理　㈱二本柳慶一建築研究所

施工　㈱森川組

STYLE6 改修工事 …… 88

設計監理　㈱二本柳慶一建築研究所

施工　㈱森川組

T・Ref コート …… 89

設計監理　㈱二本柳慶一建築研究所

施工　㈱松本組

川元建設株式会社　社屋 …… 90

設計監理　㈱二本柳慶一建築研究所

施工　㈱今井工務店

三和防災技術センター …… 91

設計監理　㈱二本柳慶一建築研究所

施工　㈱森川組

旧北海道庁函館支庁庁舎再活用計画（Jolly Jellyfish 元町公園店）…… 92

設計監理　㈱二本柳慶一建築研究所

施工　㈱カネス杉澤事業所

新十津川町役場庁舎 …… 93

設計監理　㈱ドーコン

施工　岩倉・久保田特定建設工事共同企業体

鶴居村新総合体育館ファミスポアップ …… 94

設計監理　㈱ドーコン

施工　村井・佐々木・坂野
特定建設工事共同企業体

mother's+

発 注 者　有限会社北海道種鶏農場
設計監理　竹　中　工　務　店
施　　工　竹中工務店北海道支店

《設計概要》

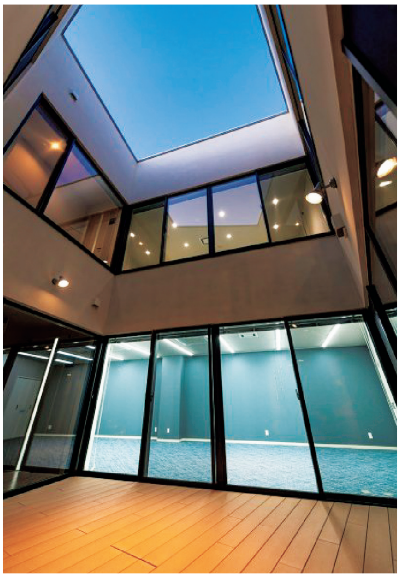
延べ面積　887.71 m²
構　　造　木造　一部鉄骨造
外部仕上　ガルバリウム鋼板
工　　費　580,000 千円
建 設 地　白老郡白老町字社台 289 番地
設備業者　大氣社、電友社

《設計趣旨》

SDG's に基づく、グリーンツーリズム・アニマルウェルフェア・産業 6 次化という次世代の思想にのっとった養鶏業のパイロットファーム「ヨコストランチ」を計画した。ファームの中核施設「mother's＋」では、卵の選別から店舗での加工販売までを行う。これにより 1 次から 3 次産業までを統合し経営の多角化と農村の活性化を目指す産業 6 次化を具現化した。主構造は白老産カラマツを用いた木造とし、ここにガラススクリーンの工房棟を挿入した。自然素材と工業製品が協奏する、それぞれの美しさの引き立つインテリアとした。外観は鶏舎をモチーフとしたシンプルなかたちとするため、仕口に鋼棒を挿入する GTR 工法を採用した。
設計担当：横尾淳一

株式会社　青函設備工業

発 注 者　株式会社　青函設備工業
設計監理　㈱二本柳慶一建築研究所
施　　工　㈱　森　川　組



《設計概要》

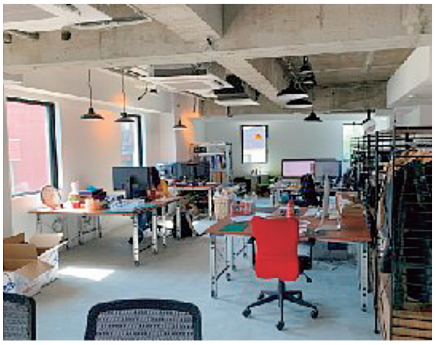
面　　積　延べ　586.94 m²
構　　造　RC 造・地上 2 階
外観仕上　レンガタイル張り・薄付仕上塗材
工　　期　令和 2 年 4 月～令和 2 年 10 月
建 設 地　函館市宝来町

《設計主旨》

この建物が建つ銀座通りは、かつて函館の歓楽街として栄えバロック建築を模したモダンな建物が建ち並び活気にあふれた通りでした。今日でも当時の面影を残す歴史的な建物が点在しているこの通りに新社屋を建設するにあたり、周辺の景観に溶け込み繁栄を築いた当時の風景を思い起こさせる建物となることをデザインコンセプトとして計画を進めました。
設計担当：二本柳 慶一、川本 昭

STYLE6 改修工事

発 注 者　STYLE6 Inc.
設計監理　㈱二本柳慶一建築研究所
施　　工　㈱　森　川　組

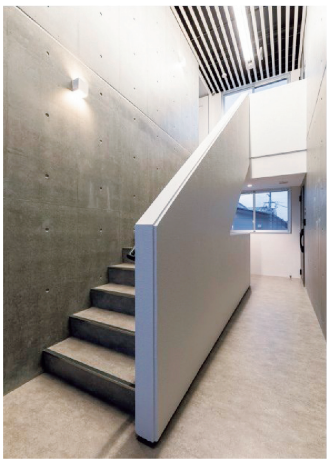


《設計概要》
面　　積　延べ　872.57 m²
構　　造　RC 造・地上 3 階
外観仕上　吹付タイル塗替え
工　　期　令和 3 年 2 月～令和 3 年 4 月
建 設 地　函館市五稜郭町

《設計主旨》
37 年前に竣工したペンションをリノベーションしたオフィスです。
コンクリート打放しを全面的に出したモダンな外観から、白を基調とした清潔感があり軽快な建物へと仕上がりました。
設計担当：二本柳 慶一、加藤 邦基

T・Ref コート

発 注 者　タナカ冷機工業㈱
設計監理　㈱二本柳慶一建築研究所
施　　工　㈱　松　本　組



《設計概要》
面　　積　延べ　511.37 m²
構　　造　RC 造・地上 3 階
外観仕上　多意匠装飾仕上塗材
工　　期　令和 3 年 9 月～令和 4 年 3 月
建 設 地　札幌市白石区

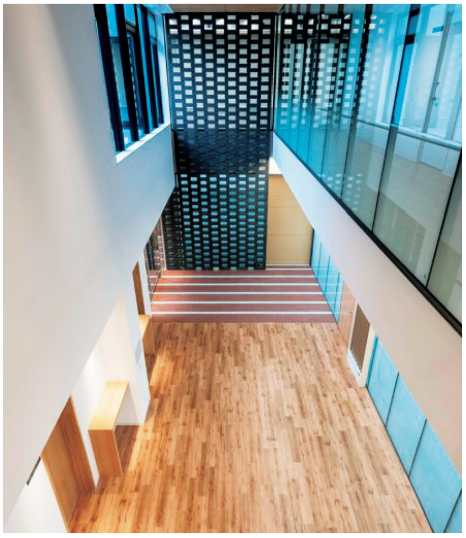
《設計主旨》
札幌市白石区の住宅街に計画した賃貸住宅です。

最寄りの地下鉄から徒歩圏内で、周辺にはスーパーマーケットや飲食店が連なっており、学生や単身赴任の方をターゲットに計画しました。1 階はテナントオフィスと共同の駐輪場置場・トランクルームを設けて、2 ～ 3 階に 1LDK の住戸を 8 戸設けました。

ファサードは、白を基調として、木板天井の庇と、階段室のガラスブロックで軽快さを出し、バルコニーの壁と天井に赤と青のビビットなカラーをアクセントにして、周辺の景観に配慮しながら建物の個性を際立たせました。
設計担当・二本柳 慶一、加藤 邦基

川元建設株式会社　社屋

発 注 者　川元建設株式会社
設計監理　㈱二本柳慶一建築研究所
施　　工　㈱ 今 井 工 務 店



《設計概要》

面　　積　延べ　859.82 m²
構　　造　RC 造・地上 2 階
外観仕上　複層塗材、磁器質タイル張り、人工木ルーバー
工　　期　令和 2 年 5 月～令和 3 年 10 月
建 設 地　函館市美原

《設計主旨》

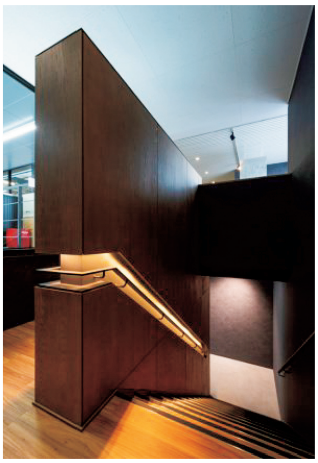
半世紀以上に亘りトンネル・橋梁施工の専門工事会社として、常に先進的な工法に取り組んで実績を積み重ねた建設会社のオフィス建替え計画です。

周辺の住宅街区に対しては、優しく威圧感の少ない木調のテクスチュアと曲線、トンネルを模した円形で住宅街にやさしいファサードデザインとしました。内部、ホールの吹き抜けには透かしレンガ越しに執務エリアと繋がっており、明るく開放的に来客者様を迎え入れる空間としました。

設計担当：二本柳 慶一、川本 昭

三和防災技術センター

発 注 者　三和防災株式会社
設計監理　㈱二本柳慶一建築研究所
施　　工　㈱　森　川　組



《設計概要》

面　　積　延べ　445.86 m²
構　　造　S造・地上2階
外観仕上　ガルバリウム鋼板～立平葺き、窯業系スレート板、防火サイディング
工　　期　令和4年3月～令和4年7月
建 設 地　函館市美原

《設計主旨》

主に消防設備工事や施設点検業務を行っている事業所の、技術研修センターとして計画しました。ファサードは黒と白のキューブを組み合わせたシンプルな形状としました。

内部はコンクリートの床と木毛セメント板の壁をベースにして、天井もスケルトンにしたラフなインテリアを構成し、一般的なオフィスよりも解放感を感じる空間を造りました。

設計担当：二本柳 慶一、川本 昭

旧北海道庁函館支庁庁舎再活用計画（Jolly Jellyfish 元町公園店）

発 注 者　株式会社はこだて西部まちづく Re-Design
設計監理　㈱ 二 本 柳 慶 一 建 築 研 究 所
施　　工　㈱ カ ネ ス 杉 澤 事 業 所

《設計概要》

面　　積　延べ　367.96 m²
構　　造　W 造・地上 2 階
外観仕上　下見板張り（既存のまま）
工　　期　令和 4 年 5 月～令和 4 年 7 月
建 設 地　函館市元町

《設計主旨》

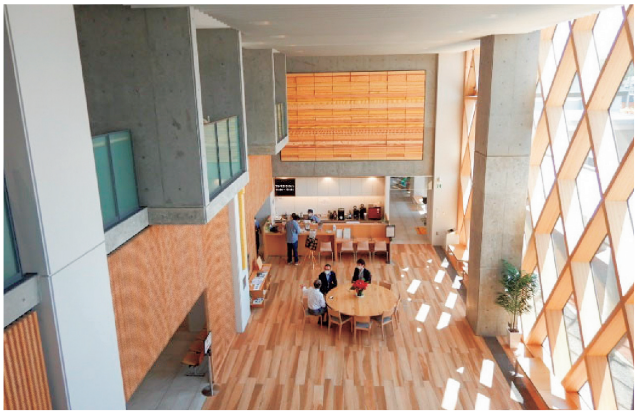
函館市元町公園内に建てられた、北海道の指定有形文化財である「旧北海道庁函館支庁庁舎」を再活用するプロジェクトとして進行されました。文化財的価値を損なわない範囲での活用が条件とされた中、現況の建築修繕含むハード的改修項目は必要最低限として、飲食提供する上で必要な厨房機能を供給する工事は、既存の躯体を傷つけないように内側に下地を組んで厨房を作るなど工夫した設計としました。
設計担当：二本柳 慶一

新十津川町役場庁舎

発注者　新十津川町
設計監理　㈱ドーコン
施　　工　岩倉・久保田特定建設工事共同企業体

来庁者を迎えるカーテンウォールのファサードと、アプローチ空間やバス停をひとつながりにする誘導性の高いカバードウォーク

町産トドマツを使用した木のぬくもりを感じる議場内装



母村の奈良県十津川村の杉を使い高断熱の木・スチール複合カーテンウォールを採用した開放的なホール

《設計概要》

面　　積　延べ 4,221.26 m²
構　　造　鉄筋コンクリート造 3 階建
外観仕上　外断熱レンガ積、ガルバリウム鋼板
工　　期　平成 31 年 3 月～令和 4 年 5 月
建 設 地　北海道樺戸郡新十津川町字中央 301 番地 1

《設計主旨》

庁舎は吹き抜け空間であるホールを中心に、執務空間や窓口機能、カフェ、バス待合所などを隣接させて、明るく開放的で機能的な構成とした。

ホールは機能連携のほかにも、人々が集い、交流する庁舎の中心となる場であり、南面は十津川村の木材を利用したカーテンウォールを採用し、木材を通して母村の歴史を未来へとつなぐ、「100 年庁舎」のシンボル的空間とした。

カーテンウォールの南側はフレキシブルに利用できるターミナル広場とし、広場を囲むようにカバードウォークを配置することで庁舎入口とバス停や車いす駐車場などの周辺機能をひとつながりで結ぶ誘導性の高い計画とした。

多雪地域の新十津川町においても屋内外の機能が連携し、まちにひらけた庁舎のありかたを示した。

設計担当　意　匠：古池章規　構　造：岩渕佳隆・飯田俊郎
電気設備：伊藤　傑　機械設備：林　達也

鶴居村新総合体育館ファミスポアップ

発 注 者　鶴　　居　　村
設計監理　㈱ ド ー コ ン
施　　工　村井・佐々木・坂野特定建設工事共同企業体

木架構の見える外観

軽快な木架構と RC 造のシンプルな外観

地域の木材を感じるアリーナ

木架構の間を走るランニングデッキ

《設計概要》

延床面積　2,722.73 m²
構　　造　鉄筋コンクリート造　一部　木造
外観仕上　ガルバリウム鋼板、コンクリート打放し
工　　期　令和２年８月～令和４年３月
建 設 地　鶴居村鶴居西６丁目１番地１

《設計主旨》

鶴居村は、その名前の通り、鶴が居る村として、タンチョウの保護活動などに力を入れている村です。自然環境に配慮した施設とするため、体育館の屋根を木架構としています。鶴居村産木材を約７割、残り３割も釧路管内の木材で建設し、地産地消、カーボンニュートラルに配慮した施設としました。

大スパンを構成するアリーナの木架構を地域材で供給可能な断面とするため、中断面（120 mm×600 mm）の梁を２本、３本と継ぎ、木造の方杖に取り付ける構成としました。

２本組みの梁とすることで、集成材の間に照明を埋め込むことができ、シンプルでスッキリとしたアリーナを実現しています。

外観や方杖は、鶴翼をイメージし、木架構がオープンに見えるカーテンウォールにより地域に新たな賑わいを創出する施設としました。

体育館という活動の場が、新たなコミュニティの場となる施設です。